

米の借金踏み倒しシナリオ

既刊214号で銀行預金の危うさを指摘しましたが、真剣に危機意識を感じた方は少ないと思います。しかし、長年のぬるま湯で「茹でカエル」が目前です。原発で視てきた安全神話は、何処にもありません。米追随の旧無策政権から、欧米金融資本に巧妙に畏が仕組まれました。

財務省発表は現代の大本の危うさを指摘しましたが、国内向けに発表する収支P/Lと国外向けの資産負債のB/Sでダブルスタンダードを使い分けています。

日本は戦勝国の戦利品

財務省発表の物差しは国民を洗脳、東電の安全神話と同質です。結局は為替で、外貨準備金（米国債）の棒引き、米に日本の国富が移転するだけです。検証する術は情報を隠蔽操作され一般国民は殆ど不可能。



この国は、信じる人が救われないのです。実際、日本は戦後の今でも、歴代政権の政策は戦勝国の戦利品政策です。

戦勝国は歴然で米国、中国、ロシア・等連合国、全ての核保有国である。日本は国家独立のため核と原潜の保持が必要？。ある意味、必要悪である。

起業家精神とは

自ら機会を作り出し、機会によって自らを変えよ

武士は己を知る者のために死すと「葉隠」にある。会社は個人を大切にすることだ。「利益を上げ税を納めるのが国家への貢献」と松下語録にある。生産性を上げ高収益にし、税を納めるのが誇りとする気風。

1968年に、創業者である江副浩正氏によって作られた。「1989年に公式な社訓としては姿を消したが、現在も、この社訓が入ったプレートに机に飾るベテラン社員がいるという、同社の中にいまでも強く根付いている。「まずは自分の成功のために考える。そしてそれが結局は会社のためになる」という発想は、いまでも斬新だ。個人と会社の距離感が極めて（44年前に作られたとし

リクルートの旧・社訓は「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」は、創業から8年目に当たる「

ても）現代的だ。「自ら機会を作り出し」の裏側にあるのは、「待っていても会社は機会を与えない」という突き放しの精神。「会社は自由を与えはするが、あくまでも責任は個人がとる」「会社と個人はWin-Winの関係を目指すビジネスパートナー」「結果を出せる人間は、自ずと高い雇用されるだけの能力を獲得し、高い市場価値がつく」という発想は、ある意味でドライともいえ、当時として非常に斬新なものです。詳細は江副氏の「リクルートのDNA」角川新書を参照されたい。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計 事務所便り
2011年8月23日 (火) NO. 220
地域から明るい未来を作ろう

常識ほど恐ろしいものはない

有機野菜は身体に良いと思いませんか。虫食いのない有機野菜は危険です。虫も付かないほど野菜自体が毒を合成し、これは毒性が強いということになります。人間も地球上の同じ生物ですから似たようなもの？

輸入食品は、アメリカでは環境ホルモンを5千項目に分けて国が管理していますが、日本では

食品は殆ど生産コストのため、業界や利権団体の都合を優先させ、消費者のために動いていない。肉や野菜、魚介類は、輸入品より検査が甘いのです。2千項目ぐらいいで、日本の検査項目は圧倒的に少ない。すなわち有機野菜・堆肥は土地と洗剤の問題で危険度が高いのです。国産だけが安全とは、まさに「原発神話」です。

